

# 総務文教常任委員会会議録

(令和5年2月1日)

愛 南 町 議 会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本日の会議 令和5年2月1日(火)  
招集場所 議員協議会室

出席委員

委員長	石川秀夫	副委員長	尾崎恵一
委員	池田栄次	委員	金繁典子
委員	原田達也	委員	那須芳人
委員	吉村直城		

欠席委員

なし

出席委員外議員

なし

傍聴委員外議員

なし

職務のため出席した者

議会事務局長	本多幸雄	局長補佐	小松一恵
--------	------	------	------

本日の委員会に付した案件

(1) 所管事務調査(机上審査)

公共交通システムの調査研究

取りまとめ

(2) その他

開会 13時30分

閉会 14時16分

○尾崎副委員長 皆さん、こんにちは。

皆さんおそろいで、所定の時間となりましたので、ただいまから総務文教常任委員会を開催したいと思います。

会に先立ちまして、委員長より御挨拶があります。

○石川委員長 皆様、こんにちは。

コロナも大分落ち着いてきたような感じがしまして、愛媛県も大分、もう1,000人台になってきて、この調子ですと、3月にはかなり下がってくるんじゃないかなというふうに思います。

国会のほうも本会議が始まって、予算委員会等も始まっておりまして、皆さんも、見られた方もたくさんいらっしゃるかと思いますが、今日は、公共交通システムの調査研究ということ、取りまとめということで、いろいろと執行部のほうからも説明の資料等、実際にバスに乗っていただいて、課題点等も皆さん認識されているんじゃないかなというふうに思います。

その中で、3月の本会議に報告するための取りまとめをやっていきたいというふうに思っております。活発な御意見いただいて、まとめていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○尾崎副委員長 それでは、早速、内容に入ってまいります。

委員長、よろしくお願いします。

○石川委員長 もう既に全員の方に、一本松便と大僧都・敦盛線ということで、全員の方に乗車していただいて、かなり課題点というのは御理解いただいていると思います。

その中で、どうしたら一本松便を、乗客数を増やしていけるかということに焦点を当てて、課題を含めて皆さんに御意見を頂きたいというふうに思っております。

御意見ある方、いただいたらと思います。

尾崎副委員長。

○尾崎副委員長 私が実際に乗ってみて、感じたところを申し上げたいと思います。

前回と重複になる分もあろうかと思うんですけども、小山・正木・中川・満倉線、火・木・土曜日の運行の乗車をしてまいったんですけども、この路線について、いろいろ現状を確認しましたところ、当日は太田・岩水間、乗客はございませんでした。

岩水から城辺営業所までは、岩水で1名、深浦で1名乗車してきたというようなところでしたが、途中で乗ってきたこの人たちは2人とも城辺営業所で降りました。1人は菅病院に行くというようなことで、恐らく乗られる方、皆ここの城辺営業所で降りて、また宇和島バスに乗ったりして目的地に行く方がおるのかな、不便やなど感じております。

運転手に聞いたら1週間に7名程度で、いずれも一本松支所で下車すると。フレッシュ一本松や郵便局や一本松の病院への利用という方が全てであって、一本松から岩水は乗客がないというような、これが今回私が乗った路線での現状でありました。

問題点としては、大きく2点ほどあろうかと思っております。

1点目は、一本松から岩水までの利用者がいないということ。これは買物、通院、通学のニーズというのが満たされていないのではないかなと思います。岩水で乗換えをしなければいけないという不便性も、その一つの原因かなと思っております。

もう一点はコースが複雑で、乗車時間が非常に長くなるというのが、もう一つの問題かと思っております。明らかに利用のない地区にバス停があって、そこにいまだに行っておるといようなところ、そういったことがあるのかなと。

結局、太田から乗って岩水までの間、1時間余りかかって、もうびっくりするぐらい長い時間がかかったという、そんな問題があります。

こういうのを感じて、ルートの新検索は必要ではないかと思っております。そして明らかに乗車

のない地区は、バス停は今回廃止、思い切ってして、あわせて福祉タクシーなどの利用も考えてみてはどうかと思います。

それで買物、通学、こういったニーズの対応としていない部分についても、コミュニティバスと、皆さんもよく意見ありました巡回バスを今回新たに考えて、連行運行など、こういったことも考えてみる必要があるのではないかなと、今回実際に乗って、私の感じたのはそういう点でありました。

以上です。

○石川委員長 ありがとうございます。

ほかに、御意見いただいたらと思いますが。

原田委員。

○原田委員 私も一本松のコースに乗ったわけなんですけど、前回の委員会でも言うたんですけども、やはり1日平均の利用者が10人を割っていると、これはちょっとこのコース、一本松の2つのコースがあるんですが、この10人を切っているというのは、これはちょっと問題であろうと。

今、委員長がいかに乗客数を増やすかというふうに言うたんですけども、私はもうこれ、コースを廃止というか、休止、休止ができるのであればいつか休むと、このコースを運行してのことはないんじゃないかと。

代わりに今、尾崎副委員長が言ったようにタクシーを利用させていただく、この福祉タクシー、バスに比べたら金額は結構はるんですが、もうこれも仕方ないんじゃないかなと私は思いますね。

これからの利用客が望めるのであればまだ続ける必要もあろうかと思いますが、これ調査してみないと分らないんですが、多分もうこれ、このコースでは利用する客はいないんじゃないかなというふうに、私は近隣の状況から考えてそのように思いますので、苦渋の決断で廃止か休止か。後はもうタクシーを利用させていただくと、そういう方向でいったらどうなんじゃないかなと。

これはまた今後の地域交通会議で十分に検討をしていただきたいと、そのように思います。

○石川委員長 ありがとうございます。

ほかに、御意見ある方。

那須委員。

○那須委員 取りまとめですから全体的なことを言いますが、まず、原田委員が言われたこと、よく分かるんですけども、コミュニティバスは利益追求型ではございませんので、100円という安い金額で乗るものですから、利用者が少ないからやめるというのは、果たしていかなものかなと。コミュニティバスの趣旨に反するんじゃないかなというふうに思っています。

当然、バス停とかコースの変更は検討し直す必要がありますけれども、基本的にフリー乗降ですので、バス停の位置ではなくてコースの変更だというふうに思っております。

それで2点、私からは、前々回のときに言いましたけれども、私はもう内海のことを考えていましたので、内海も4便、柏から網代まであるんですけども、宇和島のコミュニティバスの岩松から、柿ノ浦が最初ですよ、そこまでは料金構いませんので、柿ノ浦から大浦、盆ヶ浦、曲鳥、平井、で漁家から今度、292号線に上がるんです。それを、由良半島を共有した道路なんですけれども、須下であいなんバスと時間的に都合ができるようでしたら、網代の人は岩松から須下まで100円、須下から網代まで100円で、200円で乗れるんですね。

そういうことを、今後自治体が違っていても、コミュニティバスということで都合し合えるんじゃないかなと。全国的にそういうところもあるかもしれませんが、一つのモデルにな

るんじゃないかなというふうに思いますので、宇和島のコミュニティバスとあいなんバスとの時間的なすり合わせをできたらなというふうに思っています。

もう一つは、かつて宇和島自動車が通っていた柏崎線ですね、あそこは唯一、宇和島自動車通っていたにもかかわらず、コミュニティバスが通っていないところなので、そこを何とか考え直す必要があるのかなど。

2年続いて、地区要望でどうしても柏崎までバスを走らせてくれという要望があったんですけども、今年はやっていない。2年連続要望しても、反応がないので諦めたのか、それとももう要らなくなったのか。柏崎の人たちに聞きますと、走らせてほしいという人もいれば、もういいという人もいますね。

議会よりも委員会のほうがフットワーク軽いはずなので、改めて地区の人たちに問いかける必要はありますけれども、利用する、しないにしても、やっぱり地区の小さい声を吸い上げるのが僕は委員会だと思うんですね。

ですから、ひとつ行政のほうに言って、半年でもいいから走らせてみるという形を、私は委員会として提案すべきだというふうに思っております。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 僕も小山・正木線、乗らせてもらったんですが、乗客がゼロのところもあるということで、全体を廃止するんじゃなくて、路線の検討をしたらどうかと思います。

1回そこに乗り入れしとるので、地元の意見を聞かんと、これは地元の意見が大切だと思うんですが、例えば、今、利用者がいないとかというところは、一筆で回れるところはまだ何とか、時間のあれもあるんですけども、行って帰ってこないけんところとか、そういう場所でも利用者がいないで、例えば地元が、今のところは利用者がゼロであるのでというところがあれば、協力いただければ、そこを一時運休ということで、また利用者が出てくればというようなあれで、こちらの事情を説明しながら、丁寧に地元の意見を聞いて。地元がどうしても駄目と言われればまたそれは、そこで考えなければならぬんですが、一度はそういう投げかけをすることも必要じゃないかと思います。

そうすれば、時間も短くなってくるし、何か所か利用者のいない、今はないよというところがありましたので、それなかなか路線をまた復活とかということになると、いろんな事務的な問題とか、陸運局との問題とかもあるとは思いますが、それがクリアできれば、そういう方向がいいんじゃないかと思います。

また、柏崎からは、物すごくバスが乗り入れてほしいというような意見もありました。ただ、総務課のほうに聞いたら、この間の話では、福祉タクシー券を使っている人に聞いたら、乗り入れ要らんというような話やったと思うんですが、それは当然、福祉タクシー券持っている人は要らんという意見もありますので、両方で聞いてみんといけんと、さっき那須委員が言われたように、2回出とると。もう一回どういうあれかというのを地区で取りまとめというか、地区の総意をもう一回確認して、それと、そういうことをしながら利便性を図っていくべきだと思います。

それと、福祉タクシーがどういう、今年度、執行部のほうでどういう考えを持っておるかとか、いろんなことがありますので、それも確認しながら、本当はデマンドみたいな、デマンドというか、1日1人しか利用しないとかなというような場所で、今の、現在のバスの運行時間に支障を来しておるといふか、運行時間が長くなる原因となっておるところは、予約制とかそういうので、別便でデマンドというのにも考える価値はあるかなと思います。

ただ、デマンドという運営が大変になるということもあるし、ちょっと難しいところもあるんですけども、そういうことも考えていかんといけんのやないかと思います。

以上です。

○石川委員長 ありがとうございます。

ほかに。

金繁委員。

○**金繁委員** 皆さんと重複する部分もあり、私自身が前回に言ったこととも重複するんですけども、今、池田委員がおっしゃった、地元の住民の意見を聞くということが、路線を変更するにしても大事なかなと思います。

北海道の福島町とか、松前町とか、まあ内子もそうなんですけれども、議会も地域地域で町民との意見交換会、懇話会というのをしているんですが、行政もしているんですよ。

愛南町はまだどちらもしていないので、そういう意味でも、これはバスに限ったことではないですけども、地域地域で困り事を聞く中で、必ずこのバスのことが出てきますので、ぜひ行政のほうも地域に入って行って、町民の声を聞いてほしいと思います。

特に一本松、それから内海の、宇和島自動車があるからあいなんバスに乗れないところもあるんですが、そういう、乗っても降りられないとか、思うところで降りることができないので、宇和島バスを使うしかないという方たちからはやっぱり、コミュニティバスがある地域の人と比べて不平等感とかまあ不満も私も聞くので、やはり地域に入って行って、住民の声を聞いていただきたいというのが一番、私としてはお願いしたい点です。

それから、これも出ていますけれども、オンデマンド交通、オンデマンドタクシーとかオンデマンドバスとか、宇和島とか内子とか、いろんなところで、県内でも出てきているので、既存のタクシー業者さんとか、バス会社さんとかとの共存をどうしているのかも含め、研究はされていると思うんですけども、その結果なども議会も聞いたことはないので、ぜひ、まだ調査されていないようでしたら、調査していただけたらと思います。

以上2点です。

○**石川委員長** ありがとうございます。

吉村委員、何か、御意見あれば。

○**吉村委員** 一番最初に私、言ったと思うんですけども、福祉タクシー、あいなんバス、これ抜本的にちょっと一回見直す必要が、今すぐじゃなくて、いずれ財政的にも出てくるんじゃないかなというのが原点にあるんですけども、その中でこのコミュニティバスは、先ほど那須委員も言ったように、コミュニティバスの趣旨というのは、趣旨は趣旨で理解した上でやっぱりこの変更なりどうのこうのは協議せないけんことなんです。

この間バス、風邪具合の都合で、乗るのは乗って、中で職員が1人おったんで、話をしよったんですけども、実はスタート地点ですよ、正木の。あそこはもう人いないんですよ、あのスタート地点は。人、誰もいない。軒数も3軒しかない。そしたらあそこ、2番目に急回りして上がったら大駄馬いうとこ、あそこは人家がその倍以上ある。高齢者もおる。何でそこをスタートにせんのかと。旧態依然で、旧一本松で、あれは平成9年かな、取り入れた、あれから同じとこで、いまだに変わらず。

だからそういう見直しは、やっぱり議会というよりも行政のほうで、区長を踏まえたあれがあるんで、行政のほうでもっと積極的に地域とのコミュニケーションを取って、やっていかんことには、議会はやっぱりそれに対する監視機能というか、牽制したりなんで、その辺は行政のほうが大分遅れとるとというのが一点と、そしてこれ、今、階段上がっていたらちょうど総務課長とすれ違って、バスの後、ここは小松さんに帰ってくれいうて、出たかったんですけども帰らされたんで、会には出てこられなかったんですけども、まあそれはそれとして。

実は、小山で乗った人はあれやと思うんですけども、正木から出て、トンネル抜けて東小山へ行って、東小山からまた国道に引き返して、モーターのところが小山のほうに来たと。何であれを、東小山へ行ってそのまま真つすぐ小山へ出てこんのぞという話をしとったら、今、総務課長が、地元の人に聞いたら福祉タクシーを使うほうが便がええけん、バス走らさ

んでもええて言われましたというて今、聞きもせんのに言いよったけども。

それをなったら行政のほうがやっぱり地元と、最初私が言うたように、地元ともうちよつと突っ込んだ、あれをした上でやってこなんたら、委員長が音頭取ってこうやって、うちの委員会でもこうでしたけれども、那須委員長が言うた柏崎の件もそう、行政がもっと地元に出るなり、地元の区長と、それが一番大事やと。

それからのことで、我々が今ここで、こうでこうでと言うても、交通会議とかどうのこうのいう、あれを経んことには対応ができませんので、まとめの分だったらもっと行政のほう積極的に、地域とのコミュニケーションを取って、いうことをぜひ付け加えてください。

以上です。

○石川委員長 多分、一本松線に限らず、地域との、利用者の協議会というのがないがために、十分なニーズが吸い上げられていないんじゃないかなという、私は皆さんの御意見を聞いて感じています。

特に一本松線については、吉村委員が言われたように平成9年からルートも変更されていないということなので、これ、もう少し執行部に対して、委員会として、地域の要望を聞くための利用者の協議会ということ、少なくとも年に1度、2度は開いていただいて、その上でルートの変更をしていけば、自然と利用者は増えるんじゃないかなと。

特に一本松線については、フジに行きたいという、もともとの、買物に行きたいルートがあればというような御意見も、アンケートの調査結果等も出ていますので、そういう意味からしても、やはりこれは、一本松線を、ニーズはあるにもかかわらずそれを満足できるようなルートになっていないというふうに私も考えております。

ほかに御意見ある方。

取りまとめについてはそういう方向で。

金繁委員。

○金繁委員 路線とは違うんですけれども、バスの利用料ですよ。100円で、安価に抑えているということなんですけれども、松前とか、ほかの町も大概、100円でも身障者とか高齢者には無料化しているんですね。

利用者数を見ても、そんなに多くはないので、年間何百万かかる話ではないので、ぜひ身体障害者の方とか、一定の方には愛南町も料金を見直すと、無料もしくは半額に見直すということをお願いなんですけれども、皆さんの、委員の御意見もあると思いますが、私としては希望を出したいです。

○石川委員長 今、金繁委員から、100円の利用料を下げたらどうかという要望を委員会としてしたらどうかという御意見いただきましたけれども、皆さんいかがですか。

私はそんなに高いとは思ってはいないんですが。それよりも、今言われた……。

尾崎副委員長。

○尾崎副委員長 今現状で、あいなんバス通常100円やけど、無料になつとる方もおるんですよ。例えば高校生とか、何とか。どういった方が今、無料になっているか分かりますか。

○金繁委員 一定の子供さんと、ALTの英語の先生がっておっしゃっていましたよね。

○尾崎副委員長 通学の子供らと。無料になるんですね。障害者は。

○金繁委員 なく、高齢者もなく。ほかの町では大体。

○尾崎副委員長 そっちのほうも考えるべきやということやな。

(「みんなただになると」と言う者あり)

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 それで確かに100円自体は高くない、安いんですけれども、ただ、いろんな物が値上がりして、年金も少ない中、高齢者の方から、100円自体よりもその往復で200円、週に1回通ったら月に800円、1,000円となるので、決して安いということはないん

ですというお声も聞いているので、高齢者の方、70歳にするか75歳か分かりませんが、身障者の方とかは、ほかの町に做ったらどうかなと思います。

○石川委員長 私、大僧都・敦盛線に乗ったんですけども、皆さんが、足腰が弱い方が乗られていますので、私はノンステップバスに、ステップがないバスにしてあげたら乗り降りが楽なんじゃないかなと。料金を下げるのも一つなんですけれども、乗客の方を見ていると、もう乗るのが精いっぱいの方が乗られてきたので、やはり高齢の方がほとんど御利用されているんじゃないかなということからすれば、今後の導入についてはやっぱりノンステップバスを入れるほうが、利用しやすいんじゃないかなとは思っています。

ただ、金繁委員のほうから、料金下げたらどうやという、委員会でまとめろというような御意見を頂いたんですが、皆さんいかがですか。

那須委員。

○那須委員 そうすると気持ちはいいですけどもね。ただ、バスが走っていないところもあるんですよ。それを宇和島自動車の正規の高いお金を払っているわけで、格差があまりにも開き過ぎるんで、やっぱり100円、せめてそれぐらいは設定しておかないとちょっと不満が出るところもあるんじゃないですかね。

○石川委員長 原田委員。

○原田議長 私もこの100円、本当に最低の金額だと思いますので、これ以上、下げても、利用者が増えるとは私は思わないんですけどもね。私はこのままでいいと思いますよ。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 大変に難しいあれらも、それは、そうするのが一番いいとは思いますが、けど、障害者の方とか高齢者、高齢者になるとほかの方法というか、障害者の方もほかの方法で手当をするという、あいなんバスの値段は、とりあえずは、すごい、宇和島自動と同じような料金を払うるのであればそういう対処も必要かと思いますが、その点はもうちょっと様子を見てのほうがいいと思います。逆に言うたら障害者、障害者手帳を持つとったら、ということもある。

(発言する者あり)

○池田委員 あいなんバスも、障害者手帳を持っておったら。障害者の人に関しては、障害者1級とか2級、まあ1級、2級の方が乗れるかどうかという問題はあるんですけど、そういう、一律に障害者というてしまうのはちょっとあれとは思って、1級、2級の人を半額にするとか、そういう。まあ多分、バス、タクシーも、1級、2級の障害者は、本人は半額とか、そういう制度があると思いますので、それに做った制度を取り入れたらいかがでしょうか。障害者に関しては通常のバス・タクシーと同じ条件で、半額に。それ、手続のほうが大変やないかということもあるかもしれませんが、それやと、障害者に関してはあれだと思います。

高齢者はもうちょっと100円でやっていただいて、また多くの意見が出れば、そういうことも考えたらいいと思います。

以上です。

○石川委員長 私は、先ほどもちょっと言うたんですけども、高齢者の方でも、も一生懸命乗られている方が大半じゃないかなという感じがして、障害者の方があのバスにはとてもじゃないけど乗れるとは思いませんし、また、車椅子を乗せるようなスペースも当然ないということで、多分、障害者の方は介護タクシーを利用されている方が多いんじゃないかなという気はしています。

金繁委員。

○金繁委員 福祉タクシーじゃなくて介護タクシーですかね、今おっしゃった、あれは常時寝たきりの状態ぐらいの人でないと利用できないんですよ。なので、車椅子に乗っている程度の方は、愛南町では外出の機会、手段というのは限られてしまうんですよ。



あいなんバスを新規購入されるときに、ノンステップバスなり、歩行器なり車椅子を置く場所をつくることを委員会として要望するということにしたらどうかと思います。

前も、一般質問で要望したことあるんですけども、結局、そのバスの購入を検討する総務課が、障害福祉担当の方とか、高齢福祉担当の方と連携していなかったという事実がありまして、今後は連携して、やってくださると思いますけれども、必ず連携して、高齢者の方、足の不自由な方は乗りやすいバスに替えていただけたらと思います。

先ほどのあいなんバスの運賃免除の方なんですけれども、愛南町コミュニティバス運行条例というのがありまして、その4条に、利用者と共に同乗する6歳以下の児童の運賃は無料とすると。もう一つは、町長が必要があると認めるときは運賃を減額し、または免除することができる。

今、この町長が認めるときというのが、ALT、英語の教師ということです。

一般質問のときに、なぜ英語の先生が無料で、高齢者、足の不自由な方が無料じゃないんですか、不公平じゃないですかって質問したら、公務は無料なのですよという答えだったので、私は納得していないんですけども、そういう状況ですね。

以上です。

○石川委員長 本多事務局長。

○本多事務局長 先ほど尾崎副委員長のほうから確認の依頼がありました、コミバスの無料の対象者なんですけれども、高校生と、あと、今言われたALTの方ということになっております。

以上です。

○石川委員長 今の話から、高校生も入っているということですか。

本多事務局長。

○本多事務局長 南宇和高校に通学する通学費の補助ということのことだと思えます。

以上です。

○石川委員長 吉村委員。

○吉村委員 料金か、私は発言していないんであれですけども、それは確かに安いすりゃ、そら喜ぶのは当然やと思いますけれども、ここでバスの件を論議しよるときにこれいかなものかと思ったから私も言わなかったんですけども、確かに利用者になれば安いにこしたことはない。ところが我々が一番考えていけないけんのは、基本は財政なんですよね。とすると、バス、ちょっとかけ離れるんですけども、前から議会でも問題になっておって、そのまままで今日現在きておる、この保健センターの風呂ですよ。これみんなただなんですよ、ここ。今、特に燃料費が高騰して、私の知った者らも、安いけん、家で沸かすよりも、ただやけん。温泉ではみんな金を取って、ここはただ。多分、利用者、大分、この冷やいから増えていると思うんですが。この辺から考えていかないと、バスのときで、これはちょっと委員会のあれに出すのはどうかと思うんですけども、その辺は適当に委員長でカットしてもらうて構わんですけども。

やっぱりそれでしたらもう100円の部分は、これはいいんじゃないですか、100円のまま。さっき障害者どうのこうのありましたけれども、今度、障害者を乗せるようなあれになると多分バスの使用規定も違うてくると思うんです。金額からして。特殊バスになりますし。としよったら、今後運転手も、介護タクシーもあれ、何級か持っとかなんだらいいけんいうあれがあったんやないの。ああいう制約等々がどんどんどんついてきよったら、提供する町側のほうもいろいろ大変になってくるんじゃないかなと。その辺もあい合わせてあれしたら、安いにこしたことはないけれども、これで今のところいいんじゃないですか、と思います。

○石川委員長 御意見もいろいろ頂きましたので、執行部、理事者側が積極的に地域と、地域の

利用者と協議会を開くような要望をさせていただきたいのと、その上でルートの変更をしていただきたいというような、柏崎の件も盛り込んで、2回も要望書が出ておる中で、テスト運行をしてはどうかという方向で取りまとめたいと思いますが、いかがですか。いいですか。

(「はい」と言う者あり)

**石川委員長** 取りまとめについては、委員長・副委員長一任ということでよろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○**石川委員長** それでは、次のその他ですが、何か御意見ありましたら。

原田委員。

○**原田委員** もう今期はこれで終わりでしょう、これ。また新しくなってまた考えると。

ほかには、その他ありませんので。

○**石川委員長** 先ほど吉村委員が言われた、保健センターの風呂の無料はいかなものかという御意見を、その他でちょっと取り上げたいと思いますが、皆さんの御意見を聞きたいと思います。

確かに一本松にしてもゆらりにしても山出にしても値上げされた中で、保健センターが、風呂代が無料だというのはいかなものかということなので、皆さんに御意見を、その他の欄で取り上げたいと思いますがいかがですか。

尾崎副委員長。

○**尾崎副委員長** 行政のほうも当然その辺は、無料ということは認識して、その上でやりよるんやけど、行政としての何がしかの無料にしとる理由はあるんでしょうかね。その辺を聞いてみたいんやけど。

事務局、何かないですか。

○**石川委員長** 本多事務局長。

○**本多事務局長** 委員長、すみません。休憩をちょっと取ってもらって構いませんか。

○**石川委員長** 暫時休憩します。

(休憩)

○**石川委員長** 休憩を解いて再開します。

那須委員。

○**那須委員** 所管事務調査とまあその他というふうになっていますので、微妙なところですけども今回はちょっとテーマ外れたなど。ただ、吉村委員が言われただけではなくて、いろんな使用料、利用料、それから委託料、この辺は全て、多分総務のほうになると思うので、次の総務委員会ではそういったことも、誰かしら、一人、二人は入ると思いますので、テーマに挙げて、私は見直すべきだというふうに思っておりますので、そのことだけ言いたいと思います。

○**石川委員長** ありがとうございます。

今回の公共交通システム調査研究のほうには入らないということで、この保健センターのお風呂代が無料だという件については割愛させていただいて、次回、総務文教委員会が開かれるときに、また議題として挙げていただくように申し送りをしておきます。

○**吉村委員** 一つだけ、さっき質問しとってあれやけど、旧城辺のときから無料という部分でスタートしとるんやけれども、実は理事者答弁に、明確な答弁してないわけよ。一般質問でも同僚議員が出しとるんやけれども、明確な答弁がない。

ただ、いつまでもこれ置いとったら、間違いなしに、家で一人は風呂たいて入るよりもずっと安い、ただやから。やっぱりこれは、関係者の人それぞれ行きよる人もおると思う。私の知り合いも、6人も7人も行きよる。

これあれして、ただのまま置いて言うて冗談めかして言いよる人らおるけど、冗談やない、いつまでもただでいけるかいうて私は言いよるんやけど、これは行政がどこかであれして

いかなんだら、もう長い。

それで一回、要望書が来ちよるんよ、町長宛てに。清水町長になってからすぐ。来とるんやけども、それからずっと、延々、ただのまま、以降。いうことなので、よろしく。

(発言する者あり)

○石川委員長 それでは、もう議題も終わりましたので、終了をしたいと思います。  
よろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○石川委員長 どうもお疲れさまでした。

委員長